

「防災班」 自主防災会総会で設置と 班分けがきまりました！

3月25日の自主防災会総会で、災害時に備えて滝沢全域の皆さんを数世帯ずつの班にわけて「防災班」をつくることになりました。

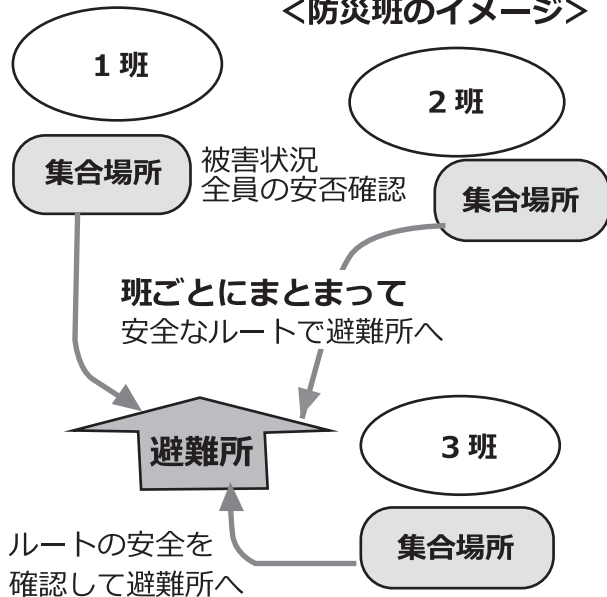
これは、東日本大震災、熊本地震、長野県神城地震などの経験を生かし、近隣でかたまって助け合ったり、いっしょに避難したりするための滝沢独自の組織です。

自治会の班とはべつに、避難する際にいちばん適切だと思われる班分けをしました。

これらの内容については、自主防災会の総会資料でご確認ください。今後、年度ごとに班分けなどを検証し、皆さんからの意見をもとに再調整することもあります。

自主防災会から、班の班長、副班長をお願いすることになりますので、よろしくお願いします。

<防災班のイメージ>



<熊本地震> (その1) 被災者の体験にまなぶ

震災時、こんなものが 意外と役立った

Aさん・・・ゴミ袋



地震直後、意外と困ったのはゴミ袋が足りなくなったこと。しばらくは指定ゴミ袋の売り切れが続いていました。

ゴミ袋は、頭と腕が通るようにカットすればカップパになり、小さめのダンボール箱やゴミ箱にかぶせて中に新聞紙を入れれば簡易トイレに、側面の1か所を切って開き体にたとえば防寒対策にもなり、なにかと使えるので、多めにあって損はないと思います。

Bさん・・・ダンボール



被災時、ダンボールは避難所でのパーテーションのほか、ダンボールベッド、防寒対策など、さまざまなシーンで活躍しました。

また、ゴミ袋と組み合わせれば用途がうんと広がります。公園など外で避難する際、平らにしたダンボールの下にゴミ袋を敷いておけば地面が濡れていても水分を吸収しないですし、箱状ダンボールにゴミ袋をセットすれば給水タンク、簡易トイレ代わりに。

Cさん・・・空のペットボトル



備蓄用のミネラルウォーターももちろん大事だけれど、からのペットボトルがあるととっても安心です。緊急時、水が出るうちにためておけますし、断水して行政から給水を受けるときにも使えます。

実際に私は避難中、ウォータータンクはおろか、からのペットボトルすら持ち合わせていなかったため、せっかくの給水を受けられず苦労しました。

ただ 2L のペットボトルは出す水の量を調節するのが難しいので、手や食材をちょっと洗いたいときなど少量の水を使うときには 500ml が活躍します。